

令和5年度事業報告書

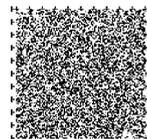
福岡県共助社会づくり

基金ニュース

ひとりじゃない、あたたかい未来。

広がっています、地域の輪。

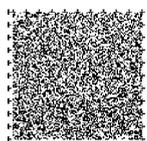
コラボステーション福岡



CONTENTS



福岡県共助社会づくり基金について	2
寄附金の種類・手続き／寄附のメリット	3
基金を活用した助成事業(ふくおか地域貢献活動サポート事業)	4
寄附者のご紹介	5~8
令和5年度ふくおか地域貢献活動サポート事業のご紹介	
[自由提案型]	
1. EMIARE Project 青少年交流&環境保全活動	10
2. 自立型高齢者住宅の市場調査・ニーズ調査および啓蒙活動	11
3. ふくおか筑紫こども食堂ネットワークに所属する、筑紫地区5市のこども食堂開催および再開支援	12
4. ひまわりさんさん広場	13
5. 久留米市・田主丸地域の賑わいづくり事業	14
6. スカイランタンに願いを込めて	15
7. 知ってもらおう、創りだそう、直鞆のたまがる 第2弾	16
8. 福祉現場職員向け「ジェンダー平等と女性支援に関する勉強会」	17
9. 高齢者と子どもの交流体験イベント&コンサート	18
10. 地域資源のやまももを育て、伝え、商品の魅力を高める協働事業	19
[テーマ型-災害支援枠]	
1. 防災の学校2023	21
2. 防災マニュアルの検証と地域との関係作り事業	22
3. 災害復旧から防災力を高める事業	23
4. セクシュアルマイノリティの視点から考えるインクルーシブ防災	24
[テーマ型-困難な状況にある子どもの支援枠]	
1. こども食堂運営事業と子供たちに第4の居場所を確保する事業	25
2. 不登校等の子ども達へのオンラインを中心とした学習支援事業	26
3. 学校に行きづらい子、社会になじめない人への自立支援事業	27
4. 子どもたちを笑顔にしたい!農業体験を通じて心を癒す活動	28
5. えほん楽団 こどもコンサート FOR こども食堂	29
[テーマ型-健康増進枠]	
1. 特別支援学校等を活用した地域における障害者スポーツ拠点づくり事業	30



福岡県共助社会づくり基金について

福岡県では、NPO・ボランティアや企業、行政などの多様な主体が地域の課題を解決するため、互いに支え合い、共に助け合う「共助社会」の実現を目指しています。

福岡県共助社会づくり基金は、この趣旨にご賛同いただいた県民や企業の皆さんの思いを「寄附」というかたちでお預かりし、「多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動」へとつなぐ基金です。

特徴
01

寄附者の思いを受けとめます

「広く地域課題の解決を図る取組を応援したい」という県民や企業の皆さんから「寄附」をお受けします。寄附者が、応援したい活動分野やテーマを指定して寄附することもできます。

特徴
02

課題解決に取り組む団体へとつなぎます

お預かりした寄附は、多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へ助成を行う「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。多様な主体が協働して取り組む事業の企画案を募集し、審査を経て助成対象となる協働事業を決定します。

特徴
03

事業の成果をお知らせします

実施された協働事業の成果は、成果発表会の開催や報告書「福岡県共助社会づくり基金ニュース」の発行などを通じて、広く県民の皆さんにお知らせします。

特徴
04

寄附された方のお名前を公表します

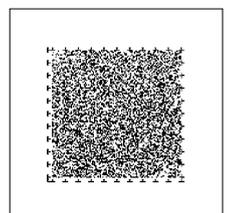
寄附者のお名前(企業名)は、広く県民の皆さんに公表します。
詳しくは3ページをご覧ください。

特徴
05

寄附者は税制上の優遇措置が受けられます

福岡県共助社会づくり基金へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。
詳しくは3ページをご覧ください。

基金のしくみ



寄附金の種類／寄附の手続き

普通寄附金

共助社会づくりの活動を広く応援したい場合

テーマ型寄附金*

特定のテーマを応援したい

※個別のテーマ指定ができるのは50万円から

テーマ例:過去に実施したテーマはこちら

環境保全活動、地震・豪雨災害の被災地支援、困難な状況にある子どもの支援、県民の健康増進活動

テーマの内容については
ご相談ください。

1.ご相談



まずはコラボレーション福岡
にご相談ください。

2.お申し込み



寄附金申込書をお送りします。ご
記入後、郵便・ファックス・電子
メールのいずれかでお申し込み
ください。

3.払い込み



振込手数料はかかりません。

福岡県から納付書を送付いた
しますので、お近くの金融機関で
お振込みください。

寄附をすることで、2つのメリットがあります。

■税制上の優遇措置を受けることができます

企業の場合

資本金の額にかかわらず、寄附金の全額を損金算入することができます。

個人の場合

所得税

[寄附金額の合計額-2,000円]×所得税の税率

※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の40%が上限です。

個人住民税

①基本控除

[寄附金額-2,000円]×10%

※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の30%が上限です。

②特例控除

1.[寄附金額-2,000円]×[100%-10%(基本分)-所得税の税率]

※この特例分が住民税所得割額の2割を超えない場合

2.(住民税所得割額)×20%

※この特例分が住民税所得割額の2割を超える場合

相続税

相続または遺贈により取得した財産を申告期限内に一定の要件を満たし、寄附した場合、その寄附をした財産は、相続税の課税価格の計算に算入されません。



ご確認
ください

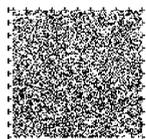
●税制上の優遇措置を受けるには、所得税の確定申告が必要です。

●具体的な控除の額は、各担当部署へお問い合わせください。

- ・所得税について・・・最寄の税務署
- ・個人住民税について・・・お住まいの市区町村税務課

■お名前を公表させていただきます

ご寄附いただいた方のお名前を「福岡県共助社会づくり基金ニュース」や「コラボレーション福岡ホームページ」に掲載させていただきます。(匿名とすることも可能です)



基金を活用した助成事業(ふくおか地域貢献活動サポート事業)

「福岡県共助社会づくり基金」を活用して、NPO、行政、地域コミュニティ、企業などの多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動を応援する助成事業です。

県が協働事業の企画案を募集し、外部有識者による審査を経て、補助金の交付対象となる事業を決定します。

自由提案型

普通寄附金 を活用し、活動分野を限定しない自由で先進的な発想や専門的なノウハウ等を活かした公益性の高い協働事業

令和5年度:10件 詳細は10ページから19ページ

テーマ型

テーマ型寄附金 を活用した、寄附者の意向による一定のテーマに基づく協働事業

令和5年度:テーマ「災害支援」 4件

詳細は21ページから24ページ

テーマ「困難な状況にある子どもの支援」 5件

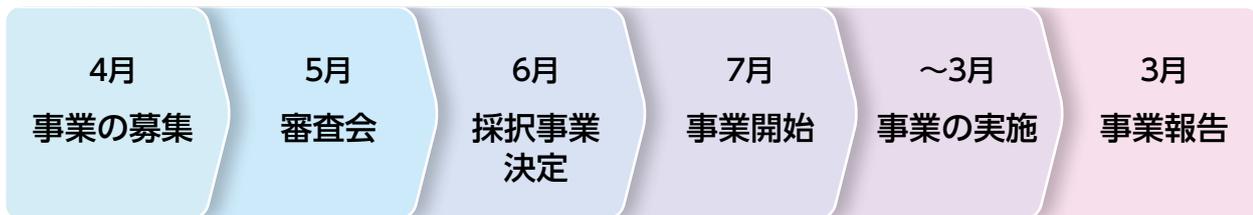
詳細は25ページから29ページ

テーマ「健康増進」 1件

詳細は30ページ

事業スケジュール

※年度によって変わることがあります



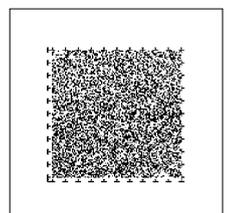
コラボステーション福岡ホームページのご紹介

コラボステーション福岡ホームページでは、今までにご寄附をいただいた寄附者の皆様や、寄附金の活用実績などを掲載しています。共助社会づくり基金への寄附を検討されている方、協働事業を応援したい方は、ぜひご覧ください。

<https://www.csf.pref.fukuoka.lg.jp>



是非
ご覧ください



イオン九州株式会社

【企業紹介】

イオン株式会社は2010年から、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、全国各地の地域行政と協働し、防災・福祉・環境保全の推進や170券種を超える「ご当地WAON」などを活用した商業・観光の振興など、さまざまな分野で双方が持つ資源を有効に活用するための協定を締結し、活動を展開しています。

イオン（株）と福岡県は、2012年4月に包括提携協定を締結し、福岡県の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。その取組のひとつが「ふくおか共創WAONカード」です。これは、全国のイオンのお店や加盟店で使える電子マネーカードで、利用額の0.1%を「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPOや企業、行政などの多様な主体との協働による「共助社会づくり」に役立ててもらうものです。この仕組みを御理解いただいた上で、「ふくおか共創WAON」の利用者が増え、寄附の好循環が生まれるように、今後とも地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続けることを目指していきます。



令和5年7月 イオン九州株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から イオン九州株式会社 山下陽子執行役員中福岡事業部長、イオン九州株式会社 柴田祐司代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事、イオン九州株式会社 末次伊佐武北福岡事業部長、イオン九州株式会社 中村正南福岡事業部長

イオン九州株式会社社長室の倉富尚也さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

NPOやボランティアの皆さまが企業や学校、行政などと一緒に、環境保全や地域活性化など様々な事業に取り組み、いずれの事業も「共助社会づくり」につながる素晴らしい取組だと感じています。

イオングループでは、「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念のもと、地域に密着した活動を続けており、「ご当地WAON」もその一環として取り組ませて頂いております。

また、イオン九州は2022年に創業50周年を迎え、昨年は新たな年として活動いたしました。2024年におきましてもイオン九州の前身となる福岡大丸創業70周年となり、更なる地域活動に貢献できるように取り組んでまいります。

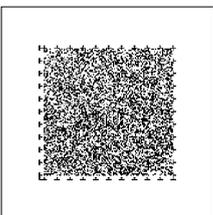
倉富尚也さん



福岡県のご当地WAON「ふくおか共創WAONカード」



「Apple PAY」も対応
※寄附の対象となります



九州朝日放送株式会社

【企業紹介】

九州朝日放送株式会社では、ふるさとの自然環境について、自分たちが暮らす足元から考えていこうと、1997年から「KBC水と緑のキャンペーン」をスタートさせました。KBCのテレビ、ラジオ、イベントなどを通じて環境保護の大切さを訴えるとともに、「KBC水と緑の基金」を募り、視聴者や聴取者の皆様からお預かりした浄財を名木治療や被災地支援に活用してきました。

17回目からは、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附をし、NPO・ボランティア団体、企業、行政など多様な主体との協働による環境保護活動や被災地の復興支援などに役立てていただいています。

27回目となった今回のテーマは「今ここから」。コロナ禍を経た次の時代に向けて、今ここから、新たな挑戦が始まろうとしています。

ふるさとの未来のために今ここから、私たちひとりひとりが始められることは何か。みなさまと共に考え、行動していきたい、そんなメッセージを込めました。



令和6年2月 九州朝日放送株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 九州朝日放送株式会社 森君夫代表取締役社長、服部誠太郎福岡県知事

九州朝日放送株式会社総合編成局次長の永山弘二さんにお話を伺いました。

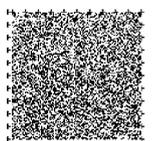
Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

永山さん

令和5年梅雨前線豪雨災害の復旧・復興に向けた取り組みや防災活動に活用いただき、視聴者・聴取者の皆様からお預かりした寄附金を有効に活用いただいていることを大変嬉しく思います。被災地の復旧・復興にはこれからも息の長い支援が必要ですので、九州朝日放送としてもサポートを継続していければと思います。



第27回KBC水と緑のキャンペーン



大坪G S I 株式会社

【企業紹介】

大坪G S I 株式会社は、柳川市に本社を構え、「世の為」「人の為」「地域のため」にどのような貢献ができるか希求し、産業廃棄物処理・リサイクル事業、採石・砕石事業、運送業、建設業、解体業を営んでいます。

県内にある企業として、県の地域課題解決に協力したいと考えており、「福岡県共助社会づくり基金」の理念に共感し、2021年から寄附を行っています。



令和5年6月 大坪GSI株式会社からの寄附金贈呈式

写真左から 板橋聡福岡県議員、
大坪GSI株式会社 大坪尚宏代表取締役、
大曲昭恵福岡県副知事

大坪GSI株式会社代表取締役の 大坪尚宏さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

大坪さん

将来を担う子どもたちのために少しでも力になればと思い、今年度は、「テーマ型:困難な状況にある子どもの支援枠」に活用いただいています。それぞれの団体が子どもたちに寄り添った活動をされており、嬉しく思います。大坪GSI株式会社としても、皆様に寄り添い、皆様の困りごとを解決すべく、事業を続けてまいりたいと思っております。

西日本電信電話株式会社九州支店

【企業紹介】

西日本電信電話株式会社九州支店では、社会貢献活動の一環として“困難な状況にある子ども支援”に取り組んでいます。福岡県共助社会づくり基金への寄附は、九州支店が受賞した表彰金を社員と相談し、是非お役立ていただきたくお贈りさせていただきました。今後も引き続き、社員から食料品・文具・児童書等を募るフードドライブ、定期的な災害用備蓄食料品の寄贈などの取り組みを通して、地域社会が抱える課題に向き合い、地域と共に成長する企業をめざしてまいります。



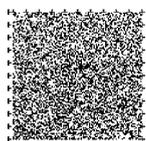
活動現場視察の様子

西日本電信電話株式会社九州支店事業推進室総務グループ長の植松圭子さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

植松さん

今年度も寄附を活用した活動について、視察・取材をさせていただきました。これは、寄附という行為で終わるのではなく、それがどのようにお役に立っているのか、その背景にある実態や課題、活動を支える皆様の思いなどを社内TVニュースにてリアルに社員に伝え、一人ひとりが“困難な状況にある子ども支援”の意義・重要性・必要性を実感し考え、今後も持続する行動に繋げてもらうことを目的としています。私どもにも、このような学びの機会を与えてくださった関係の皆様感謝いたします。



明治安田生命保険相互会社

【企業紹介】

明治安田生命保険相互会社と福岡県は2022年2月4日に包括提携協定を締結し、健康づくりやワンヘルスの推進、スポーツの振興など様々な分野で相互に連携を図り、双方の保有する資源を有効に活用した協働の取組を行っています。

その取組の一環として、2022年から「福岡県共助社会づくり基金」に対して寄附を行い、福岡県民の健康づくりに役立てていただいています。この寄附金は、大切な「地元」に想いを届けるため、従業員が、ゆかりのある地域を選んで行う募金に会社が上乘せして寄附を行う「私の地元応援募金」の取組によるものです。



令和5年12月 明治安田生命保険相互会社からの寄附金贈呈式

写真左から 明治安田生命保険相互会社 三沢信司執行役員
福岡本部長、大曲昭恵福岡県副知事、明治安田生命保険相互
会社 仲田守人福岡本部福岡業務グループマネジャー

明治安田生命保険相互会社福岡本部福岡業務グループ高石洋さん、中坂悠太さんにお話を伺いました。

Q 今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

高石さん
中坂さん

「テーマ型:健康増進枠」において、障がいのある児童・生徒のみなさまのスポーツ体験機会の提供にご活用いただき、嬉しく思います。

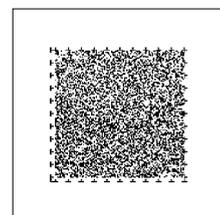
明治安田生命保険相互会社としても、地元福岡がいつまでも、活気溢れる事を願い、今後も一層支援を継続してまいります。

ご寄附いただいた皆様

イオン九州株式会社 (令和5年4月・6月)	5,272,232円	自由提案型
株式会社ダイエー (令和5年4月)	224,276円	自由提案型
トヨタL&F福岡株式会社 (令和5年4月)	554,280円	自由提案型
九州朝日放送株式会社 (令和5年2月)	2,541,288円	災害支援枠
大坪GS I株式会社 (令和5年4月)	1,000,000円	子どもの支援枠
西日本電信電話株式会社 (令和3年12月)	3,657,000円	子どもの支援枠
明治安田生命保険相互会社 (令和4年9月)	1,068,500円	健康増進枠

ご支援いただき
ありがとうございます
ございました。

※括弧内は寄附金納付年・月



自由 提案型

寄附者 イオン九州株式会社
株式会社ダイエー
トヨタL&F福岡株式会社



自由提案型
01

EMIARE Project 青少年交流&環境保全活動

協議体 むなかた人の和プロジェクト

所 在:宗像市三倉17-1

〈構成団体と役割〉

- ◆MVC(むなかたボランティアカレッジ)
海岸清掃活動運営、絵本の内容協議
- ◆宗像フェスCSR推進実行委員会
全体統括
- ◆宗像市市民協働環境部
海岸清掃共催、広報担当
- ◆帝人フロンティア株式会社
リサイクルTシャツの商品化、環境に関する講義
- ◆JR九州高速船株式会社
韓国側とのコーディネート

〈問い合わせ先〉

◆宗像フェスCSR推進実行委員会

メール office@munafes.jp

HP・SNS等 <https://www.muna-csr.com/>



海岸清掃活動の様子

課題・背景・目的

世界遺産のある宗像、福津の海岸には、大量の漂着ゴミが押し寄せており、海岸の環境悪化のほか、プラスチックゴミがさらに小さなマイクロプラスチックとなり、魚がそれを食べることで人体への影響も心配されている。

工夫した点

次世代を担う若者に環境問題の意識を高めてもらうため、韓国と日本の学生を集めて海岸清掃を実施。一緒に清掃することで、日韓の交流を図るとともに、漂着ゴミの問題は国境を越えて取り組む必要があることを伝えた。絵本制作にあたっては、アートパフォーマーと協働することで物語の趣旨が明確となり、物語とデザインを調和させることができた。

主な経費 バス借上げ料、絵本製作費委託料、講師交通費

主な取組内容

釜山外国語大学の学生と募集した日本の学生で、宗像市の海岸清掃を実施。清掃日の翌日、宗像フェスの会場で、「環境の学びや」として環境破壊とリサイクルに関する講義を実施した。また、「海のプラゴミが絵本に変わるプロジェクト」として、ペットボトルと漁具の回収を実施。それを材料にリサイクルTシャツの制作・販売を行い、その収益で絵本を制作した。

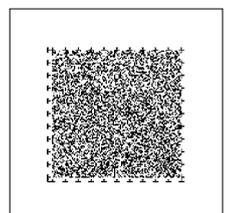
事業の成果・今後の展開

海岸清掃では、合計120人が参加し、漂着ゴミ3トンを回収。リサイクルTシャツは200枚制作し完売。絵本は、ポイ捨てされたペットボトルが紙になるまでという話で、100部制作し、帝人フロンティア株式会社を通じてインドネシアの子供たちに贈った。今後も、宗像の自然環境を守るため、持続可能な財源を確保しつつ活動を続けていく。

ペットボトルと漁具を回収し、それを材料に制作・販売したリサイクルTシャツ



アーティストと高校生の絵本内容協議の様子



自立型高齢者住宅の市場調査・ニーズ調査
および啓蒙活動

協議体 自立型高齢者住宅推進協議体

所 在:福岡市博多区博多駅東1丁目12-5博多大島ビル503

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人高齢者健康コミュニティ
企画運営
- ◆社会医療法人天神会
ワークショップ企画運営
- ◆医療福祉経営マーケティング研究会
市場調査・ニーズ調査やプロジェクトへの助言

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人高齢者健康コミュニティ

住所 福岡市博多区博多駅東1丁目12-5博多大島ビル503

TEL 092-292-3333 FAX 092-292-3334

メール kubota@hc-market.net HP・SNS等 <https://jpccrc.org/>

ケアマネジャーワークショップ

課題・背景・目的

人生100年時代と言われる日本において、現在では、健康寿命の延伸や介護重度化の予防が提唱されてきているが、これまで、最期まで安心した医療介護を受けるための介護施設を中心に整備がされてきており、予防・生活支援・生きがい活動を中心に健康寿命を延ばしたい「自立ニーズ」に応えるための自立型高齢者住宅が殆ど整備されていない。

工夫した点

ワークショップで様々な立場の人の意見を聞くため、対象者に応じたテーマ設定を行った。ケアマネジャーを対象としたワークショップでは、高齢者が在宅で生活を継続する条件や仕組等をテーマとし、特別養護老人ホームや有料老人ホームの管理者を対象としたワークショップでは、先進的なデンマークの高齢者福祉の紹介と日本の介護施設等をテーマとした。

主な経費 スタッフ人件費、謝金、リーフレット作成費

主な取組内容

高齢者福祉の新しいあり方につながる自立型高齢者住宅啓蒙のためのワークショップを、福祉医療関係者向け、一般向け（高齢者やその家族、地域の方々など）に開催。その参加者に対して、自立型高齢者住宅のニーズに関するアンケート調査を実施。その他、久留米市の自立型高齢者住宅の実態調査、入居者の市場調査、ニーズ調査を行った。

事業の成果・今後の展開

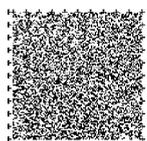
ワークショップ4回で延べ62名が参加（福祉医療関係者45名、高齢者・家族向け17名）。アンケート調査は、61件の回答があった。自立型高齢者住宅の必要性については平均87%の参加者が必要と回答した。実態調査は自立型1件、混合型3件実施した。今後は更に活動を継続し、高齢者福祉における自立型高齢者住宅の必要性を提唱していく。



デンマークの先進的高齢者福祉を学ぶワークショップ



高齢者ワークショップ



自由提案型
03

ふくおか筑紫子ども食堂ネットワークに所属する、筑紫地区5市の子ども食堂開催および再開支援

協議体 子ども食堂立ち上げ・再開支援実行委員会

所 在:大野城市中央1丁目3番46号

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人チャイルドケアセンター 企画運営
- ◆エフコープ生活協同組合 広報、マニュアル作りの助言

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人チャイルドケアセンター

住所 大野城市中央1丁目3番46号

TEL 092-502-8822 FAX 092-502-8855

メール kodomo@npo-ccc.net HP・SNS等 <http://npo-ccc.net>



学習会の様子。衛生や保管管理などについて再確認しました。

課題・背景・目的

コロナ禍における規制が緩和され、福岡県筑紫地区（大野城市、春日市、筑紫野市、太宰府市、那珂川市）の子ども食堂では、各家庭への食材配布から会場での飲食への切り替えや、新規開設を希望する団体が増えてきた。長期間の休止により失われた、食材の管理や保管、衛生管理のノウハウを今一度周知する必要がある。

工夫した点

マニュアルの作成においては、新規立ち上げや子ども食堂の責任者が変わった場合にも困らないよう、開催時の注意点をまとめるとともに、具体的な記述を心掛けた。また学習会では、食品調達の方法やフードバンクへの食材リクエストの仕組みについても改めて周知した。

主な取組内容

筑紫地区の各子ども食堂が安心して活動できるよう、食材管理や食中毒予防の再確認事項や、新規立ち上げのノウハウを詰め込んだマニュアルを作成するとともに、作成したマニュアルの解説と、衛生管理のポイントを学ぶ学習会を実施した。その他、子ども食堂周知のためののぼりやチラシを製作した。

事業の成果・今後の展開

マニュアルを84部作成し、筑紫地区の子ども食堂65団体へ配布した。学習会に参加した団体からは「学習会の参加が開設のきっかけになった」、「代表変更後もこのマニュアルを共有して活動を継続していきたい」という声が聞かれた。今後も本事業で得られた知識やマニュアル、啓発用ツールを活用し、子ども食堂の運営や立ち上げを支援していく。

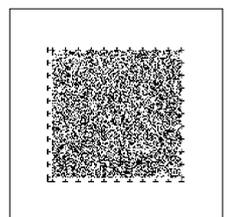
主な経費 パンフレット・のぼり製作費、消耗品・材料購入費、スタッフ人件費



分かりやすい子ども食堂マニュアルを作成し、スタッフ間の情報共有にも使用していただいています。



以前からご要望が多かった、子ども食堂パントリーののぼり旗やチラシを製作し、それぞれの団体で活用していただいております。



ひまわりさんさん広場

協議体 ひまわりさんさん広場実行委員会

所 在：福岡市西区今宿東2丁目2-10 看護小規模多機能型居宅介護 三丁目の花や
〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人緩和ケア支援センター
コミュニティ
企画運営、広報
- ◆NPO法人いるか
食材提供

〈問い合わせ先〉

◆ひまわりさんさん広場実行委員会

住所 福岡市西区今宿東2-2-10 看護小規模多機能型居宅介護 三丁目の花や
TEL 092-805-8313 FAX 092-805-8312
メール 3hanaya@kanwa-care.jp
HP・SNS等 <https://kanwa-care.jp/3chome/>



健康講座

課題・背景・目的

福岡市西区今宿校区は、北側は戸建や集合住宅の建設が進み比較的若い世代の居住が多いが、南側は高齢化が進んでいる。このような地域で、子どもも高齢者も集まることができる居場所を作り、住民同士、また多世代の交流を促進し、子ども食堂や健康講座などにより福祉や健康に寄与する。

工夫した点

地域の方と活動することに重点を置き、地域の方に実行委員会の役員として参画してもらい運営しているほか、ボランティアスタッフとしての参加、出店販売、健康講座の講師なども務めてもらっている。また、地域住民の参加を呼び掛けるため、回覧板への掲載、地元の駅への案内の張り出しなどの広報を行った。

主な経費 コンサート謝金、消耗品・材料購入費、ボランティア交通費

主な取組内容

2か月に一度、地域住民の憩いの場、健康や福祉の相談の場として、「ひまわりさんさん広場」を開催。広場では、子ども食堂、健康講座、医療・介護相談、雑貨・野菜販売などを行った。また年1回、地域住民の交流と音楽を身近に感じてもらうことを目的として、プロの演奏家による秋の夕べのコンサートを開催した。

事業の成果・今後の展開

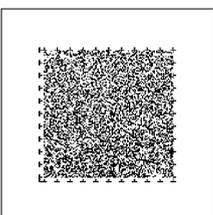
ひまわりさんさん広場は、年間で約300名が来場した。秋の夕べのコンサートでは、子どもから高齢者まで約100名が集まり、懐かしい日本の童謡や民謡に耳を傾けた。校区の小学校が周知協力してくれることで、子どもの参加者が増えており、今後は子どもと一緒に学び参加できる企画を増やしていく。



出店販売の様子



秋の夕べのコンサート



久留米市・田主丸地域の賑わいづくり事業

協議体 田主丸地域活性化推進協議会

所 在:久留米市上津町2228-66

〈構成団体と役割〉

◆ASURA

全体計画、デザインイベント運営

◆株式会社SAISEI

技術指導、広報

◆株式会社産

イベント協力、会場提供

◆久留米市

地域とのコーディネーター

〈問い合わせ先〉

◆田主丸地域活性化推進協議会

メール asura@kurume-it.ac.jp

HP・SNS等 asura_design_official(Instagram)



タイル制作中の様子

課題・背景・目的

久留米市の田主丸地域は、山苞の道を中心とした山辺や筑後川の川辺エリアに多くの観光資源があるものの、賑わいがあるのは山辺エリアであり、川辺エリアの活性化が課題となっている。そこで、川辺エリアにある「筑後 川の駅 しばかり」を中心に、地域コミュニティ組織や住民と一体となって田主丸地域の活性化の一翼を担うことを目指す。

工夫した点

11月に開催したDIYワークショップイベントでは、子どもたちにより自然を感じてもらうため、木材を土台としたタイルコースターの制作を行うとともに、田主丸地域の魅力や薬草についての講演を行った。イベントではオーガニックなおやつを提供。子どもたちに田主丸地域の自然や川の魅力を伝えた。

主な取組内容

川の駅周辺に住む親子を対象としたDIYワークショップイベントを開催し、参加者とともに建物の改装に使うタイルや、自宅用のコースターの作成や、川の駅しばかりとその周辺地域の魅力についての講演も行った。また、田主丸地域で作られる野菜や果物について学べる食育のイベントを行った。

事業の成果・今後の展開

DIYワークショップイベントには約50名の親子が参加し、子どもたちは楽しんでいる様子だった。参加者からは「このようなイベントは少ないからうれしい」、「またこのようなイベントを開催してほしい」などの声を頂いた。今後も田主丸地域の活性化と持続的な地域社会の形成を目指して、取組を継続する。

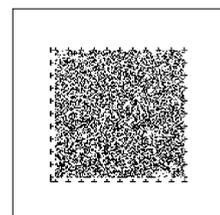
主な経費 謝金、スタッフ交通費、チラシ・ポスター作成費



11月開催のワークショップイベントの様子



イベント受付の様子



スカイランタンに願いを込めて

協議体 はやめカップ祭り実行委員会

所 在：大牟田市馬込町1丁目20番地1

〈構成団体と役割〉

- ◆ 駛馬校区まちづくり協議会 企画、広報、運営
- ◆ 駛馬校区公民館連絡協議会、駛馬校区社会福祉協議会、駛馬校区民生委員・児童委員協議会、はやめ人情ネットワーク 運営

〈問い合わせ先〉

- ◆ はやめカップ祭り実行委員会
- 住所 大牟田市馬込町1丁目20番地1
- TEL 090-5489-6561
- メール y-ueda@thanks-eng.co.jp



スカイランタン

課題・背景・目的

「認知症になっても誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を進めてきた大牟田市駛馬校区は、高齢化率が44.9%に達しており、地域の担い手発掘が急務となっている。地域における連帯意識や思いやりの心を醸成するため、地域を流れる諏訪川をシンボルに実施している「はやめカップ祭り」において、スカイランタンのイベントを行う。

主な取組内容

はやめカップ祭りと同日にスカイランタンのイベントを実施。諏訪川に浮かんだスカイランタンが5色に光る様子を、地域住民が見て楽しんだ。スカイランタンには、地域住民400人分の夢や希望、思いや願いを書いた短冊を付け、終了後はスカイランタンとともに短冊を持ち帰ってもらうことで、その思いを共有した。

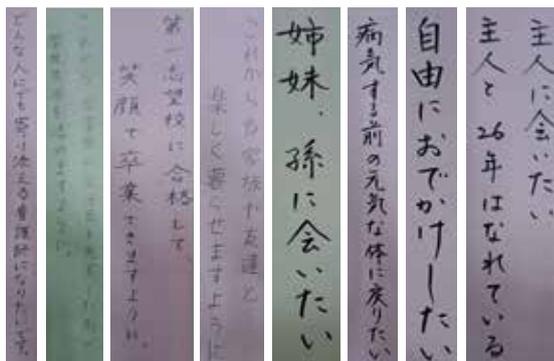
工夫した点

イベントが多世代交流の場となるよう、校区の小中学生、住民に、ランタン制作から設置までの作業に協力してもらった。環境に配慮するため、スカイランタンが飛散しないようロープで繋いだ。

事業の成果・今後の展開

地域住民及び周辺住民約700人がイベントに携わり、中学生から20代の若者約40人がボランティアスタッフとして参加するなど、イベント実施により地域住民相互の繋がりが生まれている。イベントの会場となった諏訪川の大切さ、水の大事さ、川の恩恵に対する感謝の思いを共有し、今後もこの事業を継続していきたい。

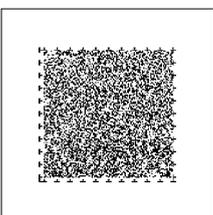
主な経費 消耗品・材料購入費、チラシ・ポスター作成費



地域住民の夢、願い、思い



老若男女力を合わせてスカイランタン制作



自由提案型
07

知ってもらおう、創りだそう、直鞍のたまがる 第2弾

協議体 **ヒーリング**

所 在: 鞍手郡鞍手町上木月1037

〈構成団体と役割〉

◆ 特定非営利活動法人ドッグセラピージャパン
企画・運営・広報

◆ PADEAR合同会社 ◆ 上木月営農組合
企画・運営・広報 地元住民や事業者との協力関係の構築

◆ 上木月ボランティアの会
地元住民や事業者との協力関係の構築、企画・広報

〈問い合わせ先〉

◆ ヒーリング

住所 鞍手郡鞍手町上木月1037
TEL 0949-28-8252



MAP作成風景

課題・背景・目的

政令指定都市にはさまれ、駅、高速道路のインターチェンジなど、交通の便が良く、果物の産地として有名な直鞍地区だが、県内外からの来客に対して、観光資源など、直鞍地区を回遊してもらうための情報提供が不足しており、通過型の観光地となっている。

工夫した点

NPOが運営する障がい者就労継続支援施設の利用者とともに取材を行うことで、多様な視点を取り入れるとともに、障がいのある方の職域の拡大を図った。

主な取組内容

直鞍地区の観光資源、地域資源を紹介するマップの第1弾として、昨年度鞍手町編を制作。第2弾の今回は、直方市の祭りや歴史・文化、ゴルフ場をマップで紹介することにより地域の魅力発信を行った。地域住民や事業主に取材することで、普通の観光マップにはない直鞍地区の魅力を引き出した。

事業の成果・今後の展開

「直鞍（ちよっくら）のたまがるMAP 直方市編」を20,000部作成し、観光地、マップ掲載店舗等で配布。ホームページやSNSでマップを紹介した。今後も、掲載イラストを変えるなど内容を変化させることで、来訪者に直鞍地区を回遊して楽しんでもらえるマップを継続して作成する。

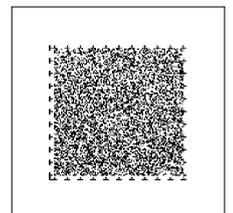
主な経費 マップデザイン・印刷費、人件費、会議室使用料



ミーティング



MAPのイラスト



自由
提案型
08

福祉現場職員向け 「ジェンダー平等と女性支援に関する勉強会」

協議体 福祉現場での女性支援を考える会

所 在：福岡市早良区高取2-2-7 エクレール201

〈構成団体と役割〉

- ◆NPO法人アコア
企画・運営、講師
- ◆特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
企画・運営、講師
- ◆社会保険労務士福田事務所
企画

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人アコア
TEL 080-5171-3501



勉強会の様子

課題・背景・目的

病気や障がいのある人への支援を行う福祉サービス事業所においては、DV被害を受けた利用者への対応場面があるが、現場職員のジェンダー平等意識、女性支援に関する知識は必ずしも十分でない。福祉現場職員に正しい知識、理解を得る場を提供することで、支援の質を向上させ、女性利用者が安心して福祉サービスを利用できる環境整備を図る。

工夫した点

多忙な福祉現場職員たちが参加しやすいよう、平日夕方にオンライン開催とした。事前アンケートを行い、現場での困りごとやニーズに合うプログラム内容を用意した。福祉サービス利用経験のあるDV虐待被害当事者女性に体験談を語ってもらい、当事者の声を直接聞く機会を設けた。

主な経費 スタッフ人件費、ゲスト謝金、消耗品・材料購入費

主な取組内容

基幹相談支援センター、多機能型事業所、訪問看護ステーション等で勤務する職員を対象に、ジェンダー平等、DV理解、トラウマケアをテーマとする全4回の勉強会を3回実施した。各回の定員を9名とし、少人数での交流や意見交換、質疑応答の時間を設けた。

事業の成果・今後の展開

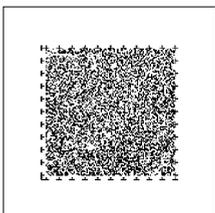
勉強会には、16事業所から20名が参加した。参加者からは「重要なテーマを話し合えてよかった」、「正しい知識と情報が参考になった」といった感想が聞かれた。今後も勉強会を継続するとともに、修了生を対象とした交流会も開催し、自由な意見交換の場を設ける。



当事者ゲスト(準備中の場面)



「トラウマケア」のイラスト資料



自由
提案型
09

高齢者と子どもの 交流体験イベント&コンサート

協議体 グレープエンジェル

所 在：福岡市南区長住2丁目4-29

〈構成団体と役割〉

- ◆NPO法人music Gate 全体統括、運営
- ◆一般社団法人SARAE 企画・運営、交渉、舞台監督
- ◆学校法人福岡女学院 会場提供
- ◆株式会社グリーンケア 広報
- ◆駄菓子「ごきげんや」企画

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人 music Gate

住所 福岡市南区長住2-4-29

TEL 090-6429-9543

メール musicgate222@gmail.com HP・SNS等 musicgate222(Instagram)



「3世代交流イベント」の昔遊び

課題・背景・目的

高齢単身世帯の増加、子どもの不登校・ひきこもりなど、高齢者と子どもの孤独・孤立は年々増加している。また、コロナ禍により人との交流機会も少なくなっている。そこで、高齢者と子どもが一緒に参加できるイベントを開催することで、両者の「おでかけ」の機会をつくり、高齢者の孤立感の解消と活力・健康の増進、子どもの自立、思いやりの心の育成を図る。

工夫した点

広報は、協議体の各団体の情報を共有することで、高齢者施設、小学校、公民館、メディア等に効率よく宣伝活動ができた。3世代交流イベントでは、浴衣での来場者にはプレゼント付きにしたところ、約30人の子どもが浴衣で来場し、会場の雰囲気華やかになった。コンサートは0歳児から楽しめる内容とし、イベントと同日開催にすることで、初めての親子も気軽に参加できるようにした。

主な取組内容

福岡女学院の教室を活用して、高齢者が先生となる昔遊びや、eスポーツを体験できる「3世代交流イベント」を開催。さらに、「観て聴いて楽しんで 音楽と演劇のアラカルト」（コンサート）を同日開催し、プロの音楽家や福岡女学院の学生、小学生の合唱団などが出演し、祖父母・親・子どもの3世代が音楽を楽しむ機会を提供した。

事業の成果・今後の展開

3世代交流イベントは、のべ350人が参加。先生役の高齢者は、定員5人のところ、希望者12人が集まり、若い世代との交流で生き活きとされていた。コンサートは約300人が観覧し、子どもも大人も時間を忘れ、演目に釘付けになった様子だった。3世代交流イベントは今後も継続予定で、高齢者の得意技スペシャリストを探し、魅力あるイベントへと成長させる。

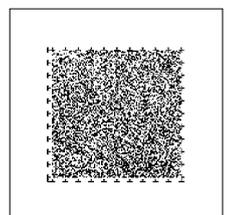
主な経費 謝金、舞台音響・照明委託料、会場使用料、チラシデザイン制作費



「3世代交流イベント」の楽器体験、eスポーツ



コンサート



地域資源のやまももを育て、伝え、商品の魅力を高める協働事業

協議体 那珂川市やまもも育成事業協議会

所 在：那珂川市成竹885-1

〈構成団体と役割〉

- ◆那珂川市 広報支援
- ◆(株)南畑ぼうぶら会議 事業全般の伴走支援・商品開発と販売
- ◆福岡女子商業高等学校 やまもも育成・商品開発・販売協力
- ◆(株)ホーホウ 全体調整・情報発信・広報
- ◆やまももの森プロジェクト 事業全体統括、市民ボランティア窓口
- ◆那珂川市商工会 販路開拓支援
- ◆(株)ブリッジ 収穫のボランティア募集・商品開発・販路拡大サポート
- ◆(株)愛しとーと 収穫のボランティア募集・商品開発・販路拡大サポート
- ◆日下部中小企業診断士事務所 商品開発・販路拡大・情報発信支援

〈問い合わせ先〉

◆やまももの森プロジェクト

住所 那珂川市片縄北4丁目5-5
TEL 090-1340-8320 FAX 092-954-2406
メール miyothanhanahana@outlook.jp



やまもも畑草刈りの様子

課題・背景・目的

那珂川市の地域資源として登録され山間部で広く栽培されてきた「やまもも」だが、育成農家の高齢化が進み、栽培する人が激減しており、市民の間でもそのおいしさを知らない人が多くなっている。荒廃の農地の再生と地域活性化を図るため、やまももの森を育てるとともに、やまももを使った那珂川市ブランドの特産品の商品開発を進める。

工夫した点

福岡女子商業高等学校の「女子商マルシェ」に参加し、高校生自ら仕入・販売・経理と経営全般を実践し、大きなビジネス経験となった。また、販売イベントにおいて高校生のインターンシップも実施した。やまももの収穫では収穫地が19箇所点に点在しており、収穫道具の改善と2~3チーム編成で効率化を図って収穫高を向上させた。

主な経費 消耗品・材料購入費、作業人件費、加工所使用料

主な取組内容

昨年に引き続き、市内外のボランティアの協力を得ながら、やまももの収穫作業や草刈り作業等の育成活動を実施。また、市内の食品関連企業と連携し、やまももキャンディやドライパウダーの開発に取り組み、商品化を推進。そのほか、近隣地域の様々な特産品販売イベントに参加し、取組のPRや商品販売を行った。

事業の成果・今後の展開

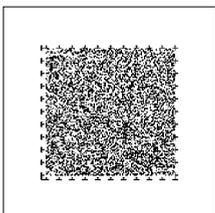
多数の特産品販売イベントに出展するとともに、やまももの収穫作業及び育成活動に延べ150名のボランティアの参加があるなど、取組の支援者拡大を図ることができた。今後も、市民、事業者との協働によるやまももの育成を継続しつつ、自立した事業展開を目指し、収益性の向上や特産品としての定着を図る。



庭先はやまもも収穫の様子



青空マーケットでインターンシップ





テーマ型

災害支援枠

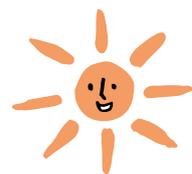
寄附者 九州朝日放送株式会社

困難な状況にある子どもの支援枠

寄附者 西日本電信電話株式会社九州支店
大坪 GSI 株式会社

健康増進枠

寄附者 明治安田生命保険相互会社



防災の学校2023

協議体 防災の学校プロジェクト

所 在:福岡市東区4-2-1 ブランチ福岡下原2F
特定非営利活動法人アクションタウンラボ内

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人アクションタウンラボ
運営、広報、ボランティア募集
- ◆博多あん・あんリーダー会東支部
企画立案・監修

〈問い合わせ先〉

◆防災の学校プロジェクト

住所 福岡市東区下原4-2-1ブランチ福岡下原2F
TEL 092-719-0290 FAX 092-719-2190
メール main@msfuk.jp
HP・SNS等 <https://msfuk.jp/>



東日本大震災の体験を聞く子どもたち

課題・背景・目的

昨今、毎年のように大災害が発災しており、自然災害への対処などを家族や身近な人と話し合う機会は増えてきているが、実際に防災訓練や防災イベントに自発的に参加する人は少ない。そこで、「家族で考える防災」をコンセプトとした啓発活動を実施し、県民の防災意識の醸成を図り、災害に強い地域づくりを目指す。

工夫した点

子どもたちが主体的に考え、深い学びを得られるように、ワークショップでは、座学だけでなく、防災グッズや防災食などを実際に体験してもらった。また、家庭での防災学習を促すことで、子どもをきっかけに、家族で防災について考えてもらう機会の創出を図った。

主な経費 講師謝金・旅費、会場使用料、印刷製本費、人件費



様々な防災食を紹介

主な取組内容

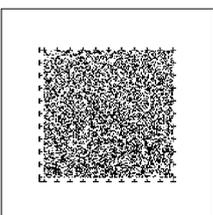
子ども食堂などを訪れる小学生を対象として、防災・減災について学ぶワークショップを開催した。ワークショップでは、東日本大震災の被災者による被災体験についての講話や避難者支援団体による防災グッズ使用体験や防災食の調理実習などを実施した。また、家庭での学びやコミュニケーションにつながるように子どもたちに防災備品を提供した。

事業の成果・今後の展開

ワークショップには子どもたち17名とその保護者が参加し、防災に関する知識を啓発することが出来た。また、今回の事業をきっかけとして、子ども食堂の実施団体と防災団体の交流に繋がり、次回のワークショップの計画や取り組みを広げるための活動につながっていった。



東日本大震災を伝える会 斎藤直志さんの講話



テーマ型
(災害)

02

防災マニュアルの検証と地域との関係作り事業

協議体

防災マニュアル検証委員会

所 在:福岡市博多区板付4丁目11-1-112

〈構成団体と役割〉

◆NPO法人ハッピーライド

企画・運営、防災マニュアル作成

◆ぴあすまいる西センター

防災訓練の実施、地域住民との連携

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人ハッピーライド

住所 福岡市博多区板付4-11-1-112

TEL 092-201-8435 FAX 092-201-8435

メール 39@happyride.info

HP・SNS等 [https:// happyride.info](https://happyride.info)

防災訓練

課題・背景・目的

障がい福祉サービス事業所等においては、災害時では特に支援が必要な利用者が多く、発災時に適切な避難を行い、利用者に必要なサービスを継続的に提供できる体制を整備しておくことが必要である。そこで、障がい福祉サービス事業所等におけるモデルとなる防災マニュアルを策定し、誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりを目指す。

工夫した点

利用者が災害時に必要となる支援内容がすぐにわかるよう、自立歩行の可否や必要な支援内容を災害時に使用することを想定し記載した安心確認カードや防災マニュアルを作り、内容はシンプルでわかりやすくした。また、施設で地域交流イベントを行い、地域住民に利用者を知ってもらうきっかけ作りを行った。

主な経費

人件費、旅費、チラシ作成費など



支援者による意見交換会



マットを活用し避難する様子

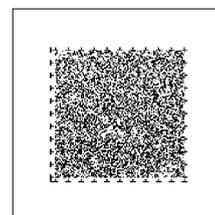
主な取組内容

福岡市の障がい福祉サービス事業所において、移動や避難が困難である利用者の避難方法や支援内容を明確にした防災マニュアルを作成し、利用者全員が安心・安全に避難できる体制を構築するとともに、実践的な避難訓練を行った。また、施設内での避難についての仮説検証も行った。

事業の成果・今後の展開

施設利用者47名の防災訓練を繰り返し実施したことで、避難時の移動方法や支援内容を確立することができた。

今後は、災害時に多くの障がいのある人が必要な支援を受けられるように、本事業の内容を県内の福祉施設に届けていきたい。



災害復旧から防災力を高める事業

協議体 防災グ

所 在: 朝倉市杷木池田687番3号

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人Camp
企画・運営、広報
- ◆杷木コミュニティ協議会
活動場所の提供、広報

〈問い合わせ先〉

◆一般社団法人Camp

住所 朝倉市杷木池田687番3号
TEL 0946 - 62 - 0954 FAX 0946 - 62 - 0954
メール info@camp2020.net
HP・SNS等 fb.me/camp2020.net

課題・背景・目的

朝倉市では、被災経験から地域住民の交流がしっかりと行われ、令和5年の災害では高齢者等の迅速な避難を行うことができた。今回の災害対応の成功と課題を振り返りつつ、子どもたち向けの防災演習や地域防災訓練などを通じて、さらなる地域内外の防災力向上を図る。

工夫した点

防災演習では、大学生ボランティアを講師に迎え、子どもたちに近い目線で指導を行うことで、子どもたちが楽しみながら学べる環境を提供した。また、地域防災訓練に向け、社会福祉協議会と継続的に勉強会を行い、地域の安全を共助で守る仕組みを学べるよう努めた。地域の居場所づくりでは、高齢者だけでなく子どもの地域交流にも力を注いだ。

主な経費 謝金、消耗品・材料購入費、人件費など



地域住民講師と被災地を見学

主な取組内容

朝倉市杷木地区において、災害時に地域で活躍できる人材を育てるため、地域内外の小学生と保護者や教員を対象に、被災地にて住民の体験談を聴き、災害について考える防災演習を実施した。また、朝倉市の社会福祉協議会と災害ボランティア団体が協働して、地域防災訓練を実施し、コミュニティマッチングの方法を学んだ。また、被災地における地域の居場所づくりにも取り組んだ。

事業の成果・今後の展開

計4回実施した防災演習には、延べ225人が参加し、地域防災訓練には103人の参加があるなど、多くの住民の防災知識を高めることができた。また、被災地交流事業では、住民から「楽しみが増えた」といった声が聞かれた。

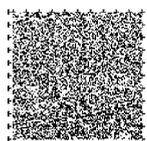
今後も、これらの取組を継続し、2度の被災を経験した県の防災モデル地域として、地域外にも取組を広げていく。



大学生講師から土のう作りを学ぶ



グループワークでの発表の様子



テーマ型
(災害)
04

セクシュアルマイノリティの視点から考える インクルーシブ防災

協議体

DERAIT

所 在:大野城市栄町

〈構成団体と役割〉

◆GID Link

企画・運営

◆東北大学 災害科学国際研究所

調査・分析、支援体制の構築

◆兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科

調査・分析、支援策の提案

〈問い合わせ先〉

◆GID LinK

住所 大野城市栄町

メール derait.office@gmail.com

HP・SNS等 <https://derait.my.canva.site>



九州レインボープライドに出展

課題・背景・目的

災害時の避難所対応においては、セクシュアルマイノリティの存在が想定されていない、または自らセクシュアルマイノリティであることを開示することを前提とした支援体制となっており、避難所へ行くことを諦める方が多い。災害時にセクシュアルマイノリティの方が直面する課題や対応策を調査する必要がある。

工夫した点

九州レインボープライドでは、英語標記の活動報告書等を掲示し、海外からの来場者に対しても、セクシュアルマイノリティと防災に関する啓発を行うことができた。また、自治体や企業、当事者団体等と連携することで、多くの当事者や支援者から意見を伺うことが出来た。

主な取組内容

当事者や行政、支援団体等に対して、災害時におけるセクシュアルマイノリティの抱える困りごとやニーズに関するアンケート調査やインタビューを実施した。

また、セクシュアルマイノリティの理解を深めるためのイベント「九州レインボープライド」にセクシュアルマイノリティと防災に関するブースを出展し、市民への啓発を行った。

事業の成果・今後の展開

当事者24名に対するインタビューや自治体等へのアンケート調査を通じて、災害時の困りごとや必要な配慮、支援の在り方など防災ガイドライン等の作成に必要なデータを収集することが出来た。

今後は、地域住民や行政職員を対象とした、セクシュアルマイノリティの方への支援のあり方に関する防災研修などを実施し、誰も取り残さない防災の取組みを推進していく。

主な経費

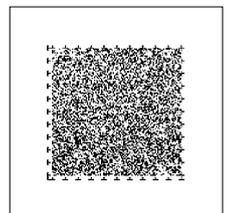
人件費・旅費、啓発チラシ作成費、ブース出展料など



アンケート調査カード



啓発チラシ(英語版)



テーマ型
(子ども)

01

こども食堂運営事業と子供たちに 第4の居場所を確保する事業

協議体 100人カレー弥永推進協議会

所 在:福岡市中央区大名2-1-43 東洋マンション大名406号

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人まなびや木の木
企画・運営、広報
- ◆社会福祉法人 たちばな福祉会
ボランティア募集

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人まなびや木の木

住所 福岡市中央区大名2丁目1番43 東洋マンション大名406
TEL 090-2857-6079 HP・SNS等 <https://www.kinoki.jp>
メール info01@kinoki.jp



食事風景

課題・背景・目的

家庭が抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中、子どもが安心して過ごせる居場所がなく、孤食・孤立するケースが増加している。福岡市でも子どもたちが安心して食事をし、自由に学習や体験することができる自宅や学校以外の居場所が必要とされている。

主な取組内容

福岡市弥永校区公民館において、毎月1回地域住民を対象とした「100人カレー弥永」を開催。あわせて、絵と習字の学習会や自由な遊びなどを実施し、子どもたちが自由に学習したり、遊んだりすることができる場を設けた。

工夫した点

地域の民生委員や社会福祉協議会と連携することで、多くの地域住民に対して、ボランティア参加を呼びかけることができた。また、地域や学校など多方面から呼びかけを行うことで、これまで子ども食堂を利用していなかった経済的に厳しい家庭も参加してくれるようになった。

事業の成果・今後の展開

「100人カレー弥永」を毎月1回計7回開催し、のべ300人の参加があった。元フレンチシェフが地元の野菜を使った手作りカレーをふるまい、子どもたちからは、「おいしかったよ。ありがとう!」といった声が聞かれた。今後も「100人カレー弥永」を継続し、最終的には、子どもから高齢者まで多世代が交流できる場を目指していく。

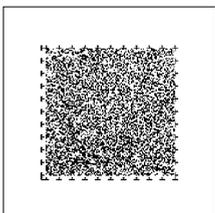
主な経費 人件費、旅費、消耗品費、印刷製本費



食事の内容



子どもの遊び場



テーマ型
(子ども)

02

不登校等の子ども達への オンラインを中心とした学習支援事業

協議体 久留米わたぼくオンライン協議体

所 在:久留米市東和町4-4 ウイングコート久留米

〈構成団体と役割〉

- ◆ 特定非営利活動法人わたしと僕の夢
企画・運営、教室の提供
- ◆ 学校法人久留米大学
学習指導講師の派遣、事業への助言

〈問い合わせ先〉

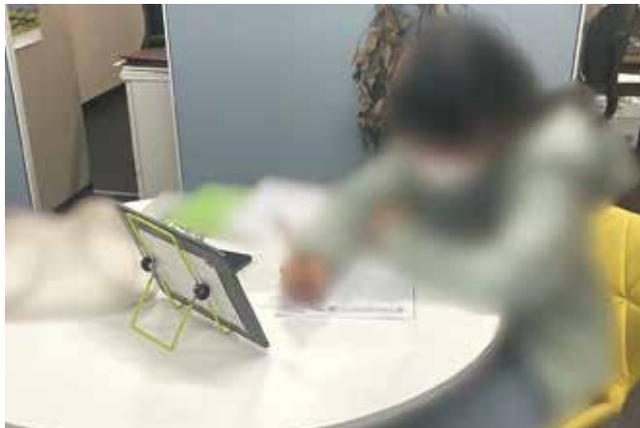
◆ 特定非営利活動法人 わたしと僕の夢

住所 久留米市東和町4-4ウイングコート久留米

TEL 0942-36-2626 FAX 0942-36-2626

メール sakai@watashitobokunoyume.org

HP・SNS等 <https://www.watashitobokunoyume.org>



生徒の授業風景

課題・背景・目的

貧困をはじめ様々な困難により学校に通えなくなったり、対人関係が苦手で引きこもりになったりする子どもたちが増えているが、制度による支援が届かない子どもや、対人関係が苦手で集合型の学習支援に馴染めない子どももいる。

そこで、オンライン個別学習指導を行うことで、子どもたちの学習の機会を創出するとともに、社会との繋がりを形成する。

工夫した点

オンライン学習指導をマンツーマンで行うことで、子どもたちにそれぞれの能力や特性に合わせたきめ細かい指導を行った。また、対面型の教室の講師にもオンライン授業の講師を担当してもらい、対面型の教室への参加に繋ぎやすくした。

主な取組内容

久留米市の不登校や引きこもりの子どもたちを対象にオンラインによる1対1の学習指導を実施。また、NPOの教室の一部を開放し、子どもたちが自由に過ごせる居場所として提供するとともに、食事を提供し、食育活動も行った。オンライン学習指導や居場所への参加を通じて他者や社会とつながることで、引きこもり解消の足掛かりとした。

事業の成果・今後の展開

オンライン学習指導を10名の子どもたちに対して、のべ213回実施。引きこもり等で学習機会が少ない子どもたちが、オンライン学習に少しずつ参加するようになり、学習意欲が向上していった。また、オンライン授業を通して信頼できる大人を見つけることができ、NPOが運営している対面型の教室への参加に繋がった。現在、生徒の分からないところを解消に重点をおいた学習を行っており、今後は学習面の体系的なフォローアップを目指す。

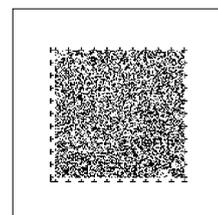
主な経費 スタッフ人件費、講師謝金、チラシ作成費



講師の授業風景



生徒・講師・管理者の三者画面



テーマ型
(子ども)

03

学校に行きづらい子、 社会になじめない人への自立支援事業

協議体 自立支援あさくら協議会

所 在: 朝倉市杷木久喜宮1508-2

〈構成団体と役割〉

◆ 特定非営利活動法人 フリースペース よつば
企画・運営

◆ 杷木コミュニティ連合会
地域への広報・啓発

◆ 朝倉市教育委員会
学校現場への広報・啓発

〈問い合わせ先〉

◆ 特定非営利活動法人 フリースペース よつば

住所 朝倉市杷木久喜宮1508-2

TEL 080-3905-7233

メール yakitrip.honjin@gmail.com



よつば交流会(よつば卒業生が自分の進路を中学生に紹介)

課題・背景・目的

特定非営利活動法人フリースペースよつばが運営する小中学生向けのフリースクール(以下よつば)を卒業し、高校等へ進学しても、うまく仲間を作れず、ひとりで思い悩んでいる子どもたちやその保護者は多い。しかし、中学校卒業後は相談・学習支援を行う機関が殆どない。卒業後の自立支援として、不登校の悩みや不安などの相談ができ、安心して過ごせる居場所が必要である。

工夫した点

当事者だけでなく、その家族や地域住民を対象とした、不登校に関する講演会を開催し、悩みを抱える小・中・高校生世代のことを正しく理解し、社会全体で子どもたちを支援する意識づくりを行った。また、よつばを卒業し、大きく成長した社会人や専門学生を招いての交流会を行うことで、自立支援を図った。

主な経費 人件費、謝金、旅費、筆記用具代など

主な取組内容

よつば卒業後の子どもたちの支援が途切れないように「シロツメクサの会」を立ち上げ、いつでもスタッフや仲間同士で集えて話せる居場所づくりや、相談・学習支援を常時実施。また、高校生や家族が、未来の生き方を考える機会とするための講演会の他、高校生が先輩として、中学生の進路決定へつなげるよつば交流会等を定期的に行った。

事業の成果・今後の展開

よつば交流会には、32人の子どもたちが参加し、高校生が中学生へ自信を持って自分の学校を紹介したり相談にのったりする姿を見ることができた。高校生の自己肯定感が高まり、卒業後は、夢に向かって大学や専門学校等に進学を希望することも増えた。

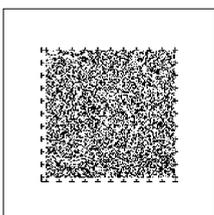
今後も、子どもたちが自立できるよう支援を継続し、苦悩している高校生の居場所を増やすため、地域や関係機関に働きかけを行っていく。



シロツメクサの会 年間計画立てと歓迎会



高校生の学習支援



テーマ型
(子ども)

04

子どもたちを笑顔にしたい！ 農業体験を通じて心を癒す活動

協議体 たねっこアグリ

所 在：福岡市南区大橋二丁目15-8

〈構成団体と役割〉

◆特定非営利活動法人食育推進ネットワーク福岡
企画・運営・広報

◆じぶん発見舎grande
講師、圃場・農具提供

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人食育推進ネットワーク福岡

住所 福岡市南区大橋二丁目15-8

TEL 080-3184-4827 FAX 092-555-3312

メール info@shokuiku-fukuoka.jp

HP・SNS等 <https://shokuiku-fukuoka.jp/>



稲刈り

課題・背景・目的

全国的にひとり親家庭や不登校児童が増加している。こうした厳しい経済状況や、社会的に孤立しやすい環境にある子どもたちは、自然や文化に触れたり、大人や友人と交流する機会が少ない傾向にある。「未来を切り開く豊かな心」を育むため、子どもたちの体験格差の解消に取り組む。

工夫した点

天候不良により田植えはできなかったものの、草取り、稲刈り、脱穀、収穫祭まで、一連の作業を子どもたちが自ら行うことで成功体験につなげ、自己肯定感を高めることができた。

また、子育てに課題を感じる複数の家庭が参加し、社会的に孤立しやすい環境にある子どもたちやその保護者へ勇気と希望を持ってもらうことができた。

主な取組内容

福岡市及び筑紫地区の学校や児童養護施設、幼稚園等に呼びかけ、有機栽培の田んぼで草取り、稲刈り、脱穀、収穫まで行う稲作農業体験を実施。あわせて、自然豊かな場所で共食を行い、食への感謝の気持ちを醸成するとともに、親子や友人間の交流を図った。

事業の成果・今後の展開

事業全体を通して、85人の子どもとその保護者の参加があった。子どもが「自分でやってみたい」と積極的に作業に挑戦する様子が見られ、保護者からは、「生産・収穫の喜びや食材の大切さを実感できる貴重な機会となった」との声が寄せられた。今後は、支援地域や農場の拡大を図り、多くの子どもたちに体験活動の機会を提供していく。

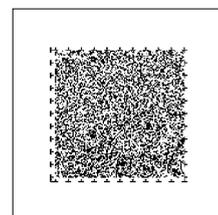
主な経費 人件費、旅費、チラシ作成費、圃場使用料など



草取り



収穫祭



テーマ型
(子ども)

05

えほん楽団 こどもコンサート
FOR こども食堂

協議体 えほん楽団 こども食堂コンサート推進協議体

所 在:福岡市博多区光丘町

〈構成団体と役割〉

◆NPO法人えほん楽団

企画・運営、演奏

◆NPO法人愛い空

子ども食堂会場提供、広報

◆北九州市松ヶ江北市民センター

コンサート会場提供、広報

◆北九州市折尾西市民センター

コンサート会場提供、広報

〈問い合わせ先〉

◆NPO法人 えほん楽団

住所 福岡市博多区光丘町 TEL 090-3012-4581

メール ehongakudan@gmail.com

HP・SNS等 <http://ehongakudan.blog.fc2.com/>

早良市民センター 第1部 沢山のお客様にお越しいただきました。

課題・背景・目的

近年、家庭の経済状況によって、子どもが芸術文化に触れる機会が制限されるなど、体験の格差が拡大しつつある。

体験機会の減少は、子どもたちの意欲や関心、人との繋がりを得るきっかけを失わせ、貧困の世代間連鎖へと繋がる恐れがある。また、共働き・ひとり親家庭の増加により、子育て中の保護者も、日常生活の中で子どもと一緒に芸術文化を楽しむ時間を確保できない状況にある。

工夫した点

こども食堂での音楽体験を機に、芸術文化に興味をもってもらい、自発的にコンサート会場に足を運んでもらうため、早良市民センター大ホールで演奏会を行った。ワンコイン(500円)で気軽にコンサートホールの香り高い芸術文化に触れてもらい、感性の素地を育むとともに、グランドピアノの無料楽器体験を行い、好評を得ることができた。

主な取組内容

福岡市及び北九州市のこども食堂において、子どもたちとその保護者を対象に、入場無料の絵本コンサートを開催。子どもたちの目の前で絵本のストーリーにのせて、分かりやすく楽しい生演奏を行った。

演奏後は楽器体験や、演奏家との交流を設け、心のこもった食事を皆でいただき、食と文化の豊かな地域コミュニティ活性化を図った。

事業の成果・今後の展開

福岡市及び北九州市でこどもコンサートを計7回開催し、延べ1,130名の参加があり、子どもたちが音楽を通じて、家族や友人との交流を深めることができた。今後も、定期的にこども食堂コンサートを開催し、多くの子どもたちが芸術文化に触れる機会を提供していく。

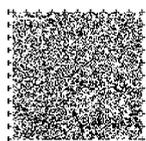
主な経費 演者謝金、人件費、旅費、委託費、楽器運搬費、チラシ作成費等



NPO法人愛い空(田中ノ焼鳥)絵本に見入る子どもたち



絵本のキャラクターに扮する朗読者・演奏者



テーマ型
(健康)

01

特別支援学校等を活用した地域における 障害者スポーツ拠点づくり事業

協議体 特別支援学校等を活用した地域における支援協議会

所 在: 築上郡築上町大字高塚787番地2

〈構成団体と役割〉

◆NPO法人しいだコミュニティ倶楽部
企画・運営

◆築上町教育委員会
広報、特別支援学校との連携

〈問い合わせ先〉

◆特別支援学校等を活用した地域における支援協議会

住所 築上郡築上町大字高塚787番地2

TEL 0930-56-0075 FAX 0930-56-0075

メール s-taiikukan@mild.ocn.ne.jp



スポーツ屋台村

課題・背景・目的

障がい者スポーツはパラリンピックの普及・振興により多くの人に知られるようになったが、障がいのある子どもたちが身近な場所で日常的にスポーツを楽しむ環境整備は十分に進んでいない。

障がいのある子どもたちの自立や健康づくり、社会参加の促進など、共生社会の実現に向けて、障がい者スポーツを促進していく必要がある。

工夫した点

参加する児童・生徒に顔を覚えてもらい、安心してスポーツを楽しんでもらえるように、スタッフは統一したユニフォームを着用した。また、児童・生徒個々のレベルに合わせた体験活動を提供できるように、毎回スタッフによる事前ミーティングを実施し、企画や種目を決定した。

主な取組内容

特別支援学校において、在籍する児童・生徒を対象にした、ターゲットボールやビンゴボッチャなど、複数のニュースポーツを体験できる「スポーツ屋台村」を開催するとともに体育授業や運動部活動の支援を実施した。

また、児童・生徒の保護者や地域住民も参加し、障がいのある子どもに対する理解や認識を深めるボッチャ交流大会を開催した。

事業の成果・今後の展開

特別支援学校で様々な体験活動を提供し、児童・生徒が安心して、スポーツに慣れ親しむきっかけを作ることができた。また、地域住民と障がい者スポーツを通じた交流を行い、社会参加や障がいに対する理解を互いに深め、共に支え合う意識の醸成につながった。

今後も、子どもたちが地域で将来にわたりスポーツを楽しむことができるように取組を継続していく。

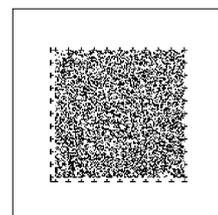
主な経費 スタッフ謝金・旅費、保険料、ポスター作製費など



体育授業における陸上指導



運動部活動の支援



お問い合わせ・アクセス

住所：〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7 県庁舎1F

連絡先： ☎ 092-643-3938 📠 092-643-3848

✉ kyodo@pref.fukuoka.lg.jp

アクセス： JR「吉塚」駅より徒歩約8分／西鉄バス「県庁前」バス停より徒歩約1分
福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約5分

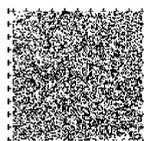
■コラボステーション福岡

<https://www.csf.pref.fukuoka.lg.jp/>



福岡県

コラボステーション福岡
(人づくり・県民生活部社会活動推進課)



※この冊子はイオン九州株式会社、株式会社ダイエー、トヨタL & F福岡株式会社、大坪G S I株式会社、西日本電信電話株式会社九州支店、明治安田生命保険相互会社から福岡県共助社会づくり基金への寄附金を活用して作成しています。

福岡県行政資料

分類記号 JA	行政コード 5200116
登録年度 05	登録番号 0002